

排気筒の点検・修繕を行っています

当発電所では、本年7月から11月までの5カ月間にわたり、排気筒の点検および修繕工事を行っています。

排気筒は、原子炉建屋、タービン建屋およびサービス建屋を換気した空気などをフィルターを通して大気中に放出する設備であり、地震や台風、暴風雪などの自然災害に対しても健全な状態を維持できるよう、定期的に点検や修繕を実施しています。

今回は、筒身部分のひび割れや基礎ボルトの緩みなどがないかを確認するほか、さびなどによる劣化を防止するための塗装も行うこととしています。



土木建築課
やまだ みさお
山田 操
(青森県南部町出身)

【点検担当者より】

排気筒の高さは111mあり、高所での作業が中心となることから、体調管理や墜落防止器具の確実な装着など、さまざまな点に注意して作業を行っています。

また、作業時は目視だけではなく、直接手で触れることで、損傷などがないかをしっかりと確認しています。

今後も、協力企業とともに、安全確保を最優先に丁寧な点検作業に努めていきます。



排気筒 概要



ゴンドラを使った筒身の塗装作業

地震から守る対策についてご紹介します

当発電所では、東日本大震災の教訓などを踏まえ、大きな災害にも耐えられる発電所を目指し、震災前の安全対策に加えて、設備面と各種訓練など運用面の双方からさまざまな安全性向上対策に取り組んでいます。

設備面の対策として今回は、地震対策についてご紹介します。

原子力発電所の重要な施設は、硬い岩盤の上に直接建てることで、地震の揺れによる影響が小さくなるように設計しています。

当発電所では、さらなる耐震性向上を図るため、東日本大震災などから得られた最新の知見を踏まえ、自主的に補強工事を実施しています。

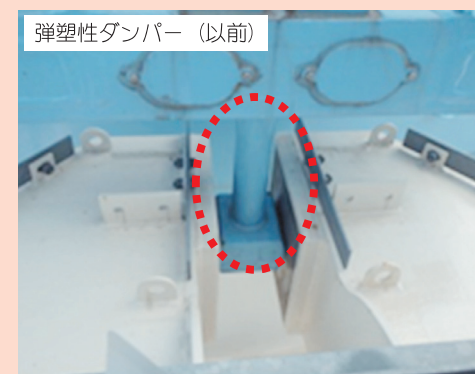
具体的には、排気筒に設置していた従来の弾塑性ダンパー^{だんそせい}を撤去し、より地震の揺れを吸収する効果の高いオイルダンパーを設置しました。

また、建屋内各所の配管や電線管などの揺れを抑えるため、サポートの役割を果たす支持構造物を追加したり、部材の強化を実施しました。

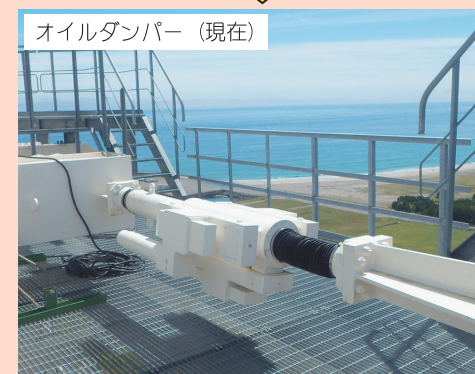
原子力規制委員会による当発電所の適合性審査については、本年7月で断層評価に係る審査が一通り終了しました。今後は、基準地震動^{きんじんしどう}などの審査が進められる予定であり、審査結果を踏まえたさらなる地震対策にしっかりと取り組んでまいります。

※ 基準地震動

発電所の耐震設計に用いるために想定した地震の揺れ



鋼製の棒が変形することにより地震の揺れを吸収



油圧により地震の揺れを吸収

安全大会を開催しました

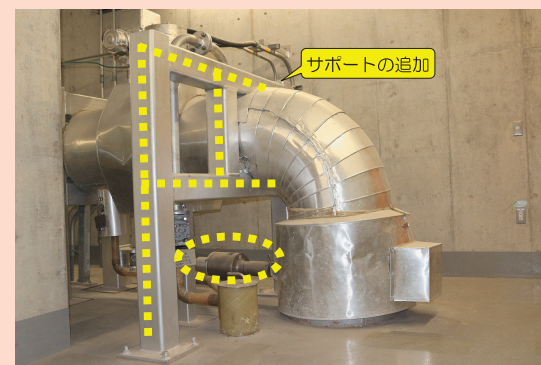
9月8日、当発電所で働く企業各社が集まり、無事故・無災害の達成に向け、安全大会を開催しました。

当日は、むつ労働基準監督署 本田義和署長より労働災害の発生防止についての講話をいただいたほか、発電所の運営や工事の安全管理などに貢献した協力企業に対し発電所長表彰を授与しました。

最後に、参加者全員で安全標語を唱和するとともに、代表者が安全宣言を宣誓し、当発電所で働くすべての人が一丸となり、無事故・無災害を達成することを誓い合いました。

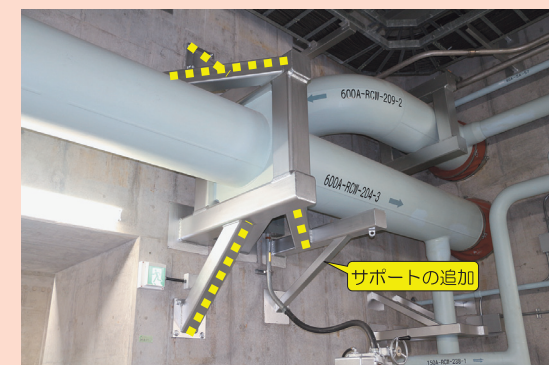


全員で安全標語を唱和



サポートの追加

海水系ポンプの吐出配管の耐震性向上工事



サポートの追加

原子炉系機器の冷却用配管の耐震性向上工事